抜粋

商店街のための 防災アクションガイド

命を守る。店舗を守る。事業を続ける。
自助、共助、BCPでつくる、災害に強い商店街へ。



東京都商店街振興組合連合会

はじめに

地震・火災・水害などの災害は、いつ、どのような形で起こるか分かりません。商店街は、店主や従業員はもちろん、日々多くの買い物客・来街者が行き交う場所であり、被害を最小限に抑えるためには一人ひとりの備えと、店舗同士・地域が連携した行動が欠かせません。

商店街には、日頃から店主や従業員同士、また地域住民との「顔の見える関係」があります。この普段からのつながりこそが、災害時の情報共有や助け合いにつながる、商店街ならではの防災力です。大がかりな計画づくりだけが防災ではありません。まずは「隣の店舗と、もし災害が起きたらどうするか話してみる」ことが、防災の第一歩です。

本ガイドは「命を守る（自助）」→「店舗同士で助け合う（共助）」→「事業を続ける（BCP）＝商店街を止めない」という流れで構成しています。自店に合う項目から、できることを一つずつ始めましょう。



もくじ

P.03 地域・商店街の災害リスクを知る トピック
P.04 個店で進める減災対策（自助） 自助
P.05 自衛防災組織の立ち上げ 共助
P.06 発災直後の初動タイムライン 自助・共助
P.07 情報収集と安否確認の仕組み 共助
P.08 お客様（買い物客）の安全確保 共助
P.09 避難誘導&帰宅困難者対策 共助
P.10 地域連携（近隣店舗・町内会・消防団） 共助
P.11 共同備蓄品・資機材リスト 共助
P.12 商店街BCP（事業継続計画） BCP
P.13 使える補助金・支援制度（発災前・発災後） BCP
P.14 応急手当と救護体制 共助
P.15 実効性のある防災訓練計画 共助

トピック 基礎知識

地域・商店街の災害リスクを知る

商店街は個人宅とは異なるリスク構造を持っています。アーケードや看板、密集した店舗配置、大勢の来街者 —— こうした商店街特有の弱点を知ることが、対策の第一歩です。

商店街に特有の災害リスク

災害種別	商店街特有のリスク要因	想定される被害
地震	アーケード・庇（ひさし）の落下、看板・外壁の倒壊、店内什器の転倒、ガラスの飛散	来街者・従業員の負傷、通行路の閉塞、二次災害
火災	店舗の密集による延焼、老朽化した電気配線・厨房設備からの出火、狭い路地での消火活動の困難さ	複数店舗への延焼、アーケード内への煙の充満
水害・浸水	地下店舗・地下駐車場への浸水、排水設備の能力不足、低地に立地する商店街の冠水	商品・什器の水没、電気設備の故障、営業停止の長期化
群集事故	買い物客で混雑した通路・アーケードでの将棋倒し、避難口の一時的な集中	転倒・圧迫による負傷

自店・商店街まわりの危険箇所チェック ☑マークを入れる

- ☐ アーケード・庇にひび割れ、錆、緩みがないか
- ☐ 屋外看板・袖看板の固定金具が劣化していないか
- ☐ 店舗前面の大型ガラス・ショーウィンドウに飛散防止フィルムがあるか
- ☐ 店舗周辺の電柱・電線・トランスの老朽化はないか
- ☐ 共同溝・側溝が落ち葉やゴミで詰まっていないか（浸水対策）
- ☐ 狭い路地や裏通りに放置自転車・置き看板等の障害物がないか
- ☐ 消火器・消火栓の設置場所と使用期限を把握しているか
- ☐ 避難経路（表・裏）が塞がれていないか、年1回以上確認しているか

これらの危険箇所は、個々の店主だけで解決できない項目（アーケードの老朽化、道路の側溝など）も多く含まれます。気づいた点は商店街の理事会・事務局に共有し、行政・管理組合とも連携して計画的に改善しましょう。

共助 共同備蓄

共同備蓄品・資機材リスト

個店での備蓄に加え、商店街で共同備蓄・共有資機材を持つことで、負担を分散しながら実効性の高い備えができます。保管場所を決め、年1回の点検・入替を行いましょう。

救助・応急資機材

品目	目安数量	用途・ポイント
バール・のこぎり	各2〜3本	倒壊物・閉じ込め発生時の救出活動に使用
ジャッキ（油圧式）	1〜2台	什器・倒壊物の下敷きからの救出に使用
担架・毛布	各2〜3セット	負傷者の搬送・保温に使用
AED	1台以上	設置場所を全店舗・全従業員に周知（P.14参照）
発電機・投光器	各1〜2台	停電時の照明確保、燃料の備蓄と定期試運転が必要
トランシーバー（無線機）	5〜10台	電話不通時の班同士の連絡手段）

生活備蓄品（来街者・帰宅困難者支援用を含む）

品目	目安（想定人数×3日分）	ポイント
飲料水	1人1日3L×3日分	従業員数＋来街者支援分を上乗せして算定
非常食（アルファ米・缶詰等）	1人1日3食×3日分	賞味期限を年1回確認し、期限前に入替（ローリングストック）
簡易トイレ・凝固剤	1人1日5回分×3日分	断水時、既存トイレが使用不可になることを想定
毛布・保温シート	想定避難者数分	季節を問わず体温低下を防ぐため必須
衛生用品（マスク・消毒液・簡易おむつ等）	3日分	感染症対策・乳幼児・高齢者への配慮

備蓄品は「どこに・誰が・何を持っているか」を一覧化し、商店街だより等で加盟店舗に共有しましょう。保管場所は特定の1店舗に偏らせず、複数拠点に分散すると被災時のリスクを下げられます。購入費用には東京都「商店街防災力向上緊急支援事業」などの補助金（P.12参照）を活用できます。